

9月会山行、道東羅臼岳メモ帖

9月16日会倉庫に集まり、10人乗りの広くて大きいレンタカー2台に16人が乗り込み6時に出発、登別で1名をピックアップ高速を利用、北広島で1名同乗、高速を利用し、適宜休憩を取りながら、旭川紋別道、国道333、334を斜里に向け車を駆ける。途中から頭は雲の中の斜里岳、海別岳、羅臼岳、硫黄岳を遠望し期待に胸が膨らむ。ウトロから岩尾別地の涯ホテルの奥木下小屋に15時40分頃到着、管理人不在、少し待つ。



2階を貸し切りで使用、露天風呂もあり少しぬるめか、男性・女性に別れ場所割り寝場所を確保。ベランダのテーブルに女性陣は夕食の手配、有り難い事です、リーダーの発声で明日の天気祭りを祈念して乾杯、美味しく料理を食べ、飲み。歓談する。19時前後には寝袋の中、23時ころトイレに起きる。外は薄曇り、明日の天気心配、17日朝2時40頃起床、お茶で稲荷を早食いする。



4時、上下の雨具を着込み、ザックカバーを装着、ヘッドライトを頼りにA班を先頭に登山開始、ジグを切って登る、縦走組は荷が重そう、頑張ってください。375m付近で小休止。5時頃夜明け白見掛かり、ライトを消す。

両側に小高い岩のオホーツク展望台より東を見渡す、標高約600m、オホーツクと知床5湖がかすかに望めた。780m前後、弥三吉水に6時15分頃到着、多めの休憩を採る。縦走組は大きなペットボトルに冷たい水を詰める。美味しい水だ、ペットに補充する。



少し登ると傾斜が緩やかになり小灌木と笹原で極楽平と、少し登ると仙人坂に差し掛かる。頂上まで3kmの表示、頑張ろう。



少し急登が続く、950mで小休憩。



少し登り標高1050mの銀冷水に7時45分頃到着、小休息。



沢地形の大沢にやって来た、岩を巻くような箇所があり、油断出来ない。

下方からの吹上寒冷前線の通過で気温低下、雨具の下に重ね着をする。風雨が強く袖口やカバーの合間から雨滴が差し込む。



1250m前後まで登る、益々風雨が強く、低体温症の恐れもあり、リーダーの判断で撤退を決める。羅臼平まで標高差100m、残念だがまたの機会に登ろう。銀冷水で大休憩、昼食を摂る。

スリッパに注意しながら慎重に下る。弥三吉水より下方は尾根道で両側が結構切れ落ちている。

小屋の屋根が見えるとホッと息安どする。

11時35分帰着。

小屋の前の水でスパッツ靴の泥を落とし、管理人の好意でストーブの周りに濡れた雨具、カバー等を干す、手袋はビニール袋に入れ仕舞う。

外は降雨の為、管理人の好意で二階にテーブルを並べ女性の皆さんの奮闘で肉鍋、カレーライス、サラダのご馳走を前にリーダーへの感謝と会計、女性陣、食料掛りへの感謝と反省を込め乾杯で登山会を締める。

20時30分には就寝、明日は5時起き、7時に木の下小屋を立つ予定。

18日(日)、起床4時50分、昨日の残り汁物に御餅を入れ、雑煮もどきで朝食を済ます。ガスコンロを最後に仕舞い、パッキング終了、忘れ物・汚れが無い二階の部屋を最後に確認、管理人にお礼のことばを述べる。車に荷物を積み込み、皆で管理人に感謝の言葉を述べ、7時に木の下小屋を後にする。

知床峠への道が鎖で閉鎖、30分待つ。

知床峠(740m)よりの羅臼岳の雄姿に感激、国後島も間近かに望め、感慨ひとしお、南に天頂山、知西別岳(1317m)が並ぶ。



峠を後に、知床一湖の木道を7時40分～廻る



2回も来たがこんなクマよけ木道を歩くのは初めて



一湖の眺めも再認識



知床ビジターセンターに立ち寄り、100平m通道の場所、大熊の穴倉模型等館内を見学。

観光を終え16日に通った道を引き返す、途中入湯、昼食を摂る。順調に車を駆り、登別で給油、20時45分頃会の倉庫裏に到着、3日間有難うございました。河村勝さんの手配の車大変結構でした。有難う御座いました。

近藤